

日本人のマナーは

● 放眼日中



10月初めは中国の国慶節であり、連休を利用して、また多くの中国人観光客がやって来た。一時は「上海株が暴落し、爆買する中国人が減るのではないか」と危惧されたが、それは杞憂に終わったようだ。「中国人のマナーが悪い、銀座などはうるさくて歩けない」という声も相変わらず聞こえてくるが、最近はその中国人に物を買ってもらわなければ消費が落ち込むと考える人も増えたように、反中的な報道に一時の勢いはなく、代わりに「中国人がこんな物を買っている」といった情報が目に付くようになってきた。

アジアを旅していると、一般的に日本人は控えめで礼儀正しいな、と思うことは多い。だが、以前もそうだったのだろうか。25年ほど前、筆者は台湾・香港にも頻繁に行っていたが、その時の日本人観光客のマナーの悪さは「同じ日本人として恥ずかしい」と思うことばかりだった。高級ブティックをわが物顔で歩き、店員に日本語で文句を並べ、ネクタイを端から端まで物も見ずに買っていく男。どう見ても似合わない100万円以上するバッグを二つ三つと買っていく女。団体の旗を立て、現地の文化などお構いなし、自分が一番偉い、と言わんばかりの態度を取る、そんな日本人を何人見たことか。今、中国人を中傷するときに使う内容とまるで同じではないか。

「それはバブル期の話、そんな日本人はもういないよ」と言う人もいる。だが、先日久しぶりに乗ったタイ航空の成田―バンコク便では、目を疑うような光景が見られた。タラップで機内に上がる際、前の2人の肩が少し触れたところ、一方の男性が突然「人におつかりやがって、謝れ!」と叫び始めた。相手の男性は無視して先に進んだので、その男は逆上し、相手の体を掴んで耳元で怒鳴りだしたのだ。客室乗務員が間に入ってそれ以上には至らなかったが、どうみても相手は日本語が分からないタイ人だ。この上から目線の態度に、他の乗客たちは驚き呆れた。

「そんな日本人は極めて稀な存在だ」と言うかもしれない。筆者もそう思いたい。だが、その後の機内放送でも、驚くことがあった。タイ語、英語に続いて、日本語放送があったのだが、日本語の時だけ、「機内でお酒を飲み過ぎないようにしてください。たとえ、自ら持ち込んだお酒でも一定量以上、飲まないようお願いいたします」と言っているのだ。このようなアナウンスが流れるからには、複数の日本人が過去に機内で泥酔し、さまざまなトラブルを起こしたであろうことは容易に想像できる。

「旅の恥は掻き捨て」という言葉があるが、日本も中国も基本はあまり変わらないのではないだろうか。もちろん、現時点においては、日本人の方が礼儀正しい、現地に好まれる人は多いかもしれないが、「アジアに対する上から目線」は知らず知らずに刷り込まれている可能性がある。最近「日本はこんなに素晴らしい」というテレビ番組が幾つもあるのは、気に掛かる。自国に誇りを持つのは良いが、あまりに美化するのはどうだろうか。自らの欠点についてもしっかりと目を向ける、それが日本人の美德ではないだろうか。



コラムニスト・アジアウォッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。